



THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
 宣教100～110周年標語
 감사의 백년, 소망의 백년
 感謝の百年、希望の百年
 (데살로니가전서 5:18)

発行所 **福音新聞社** (1部100円)
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 ☎03-3202-5398
 発行人/趙重來・編集人/金柄鎬
 fukuinshinbun@kccj.jp (福音新聞)
 info@kccj.jp (総会事務局)

聖誕節説教



万民の喜び

(ルカによる福音書2:1～14)



李根秀牧師(総会書記、大垣教会)

聖誕節礼拝を迎えながら、私たちの救い主である主イエス・キリストの誕生を心からお祝いいたします。私は十数年前まで、世間のクリスマスの過ごし方に大変、批判的でした。飾りが派手だとか、商売に利用しているとかいうよりも、何よりも、クリスマスの意味を知らないということに批判的だったのです。

日本語で「クリスマス」と書くと、キリスト教と何の関係があるのと思ってしまうのですが、英語で書くと「Christmas」、一目了然です。クリスマスというのは、キリスト礼拝のことです。どこで何をしようが良いのですが、「クリスマスとは、キリスト礼拝のことだ」ということだけは忘れてはいけないのです。

これはこれで正しい考え方だと思います。そんな私が、少し考え方を変えた理由は、オーストラリアのクリスマスを体験してからです。私にとって、1996年のクリスマスは、独りでクリスマスを迎えることになったため、とても寂しいクリスマスでした。10月6日にオーストラリアへ行きました。家族は、翌年の3月にきたのです。その間、私はユナイテッド・チャーチの総務の家で居候をしていました。

ところが、クリスマスには、総務は自分の実家に帰り、家族でクリスマスを祝うのが毎年のことでした。私一人を放置することもできないので、ある家にクリスマスの間、私を預けました。そして、クリスマスを迎えました。その家族が集まって、クリスマスを祝ったのですが、その家族の中にアラブ系の人がありました。確か、娘婿でした。その人はもちろんモイストラ教徒でした。しかし、宗教を越えてクリスマスを祝っているし、楽しんでいました。

独りさびしかった私にもプレゼントをくれました。私は、プレゼントというのは家族に送るものだと思っていましたから、準備せずに、貰うだけでした。でも、彼らは私のことを配慮してちゃんとプレゼントを用意してくれていたのです。しかも、イスラム教徒の彼がです。

わたしは、その彼と家のプールに入って一緒に遊んだのを懐かしく思い出します。(オーストラリアのクリスマスは、夏にあります。) そんな経験をしてから、新しい気持ちで、今日のテキストを読み直すと、今まで気付かなかったことに気づかされたのです。

今日の説教の主題である「民全体に与えられる大きな喜び」(2:10、新共同訳)という御言葉について考えてみましょう。これは誤訳に近いと思っています。むしろ口語訳聖書の「全ての民」と訳す方が無難だと思います。韓日対照の聖書では「万民(만민)」と訳していますが、この訳が一番良いと思います。英語の聖書も「whole(全体)」とではなく、「all(全て)」です。ギリシャ語は「パンティ ト ラウ」(複数形)です。つまり、「民全体」と訳しても間違いではないのですが、それでは、イスラエルの民全体という意味になり、他の民は関係ないということになってしまいます。それよりも、全世界の民族に与えられた喜びと理解するほうが神の御心に即していると思えます。

そう考えると、クリスチャンではない人々もクリスマスを祝うことが許されているということです。このことは、考えてみると、驚くべきことです。制限なしの全ての人なので、先ほど言ったように宗教の違う人でも、キリストを信じていない人でも、誰でも構わない。この世から排除され、馬鹿にされ、差別されている人なら、なおさらクリスマスの喜びを真っ先に味わうことが許されているのです。

クリスマスの喜びがまず羊飼いたちに知らされたことを深く考えてみるべきです。当時の羊飼いは「罪人=律法違反者」にならざるを得ない人々だったのです。彼らは羊を養いますが、所有者は町の金持ちです。羊飼いたちは、一度、町を離れると1カ月から3カ月ぐらいい家に帰れない職業です。

したがって、全てのイスラエル人が必ず守らなければならない安息日を守ることができません。つまり、律法違反者であり、罪人です。違反したくてしているのではありません。罪人になりたくてなっているのではありません。生きるために、愛する家族のために今夜も羊を守って野宿をしているのです。そして、そのことが律法違反だと責められるのです。

こんな羊飼いだからこそ、神は真っ先にクリスマスの喜びを伝えたのです。これからは、罪人と呼ばれなくて済む辛い、堂々と胸を張って羊飼いをすることが許される喜びが伝えられたのです。真に、救い主がこの世に来てくださったという喜びは誰にでも、まさに「万民」に与えられた喜びであります。

2013年のクリスマスを迎えながら、この喜びを皆さんと共に分かち合いたいです。

<第10回 歴史講座> 在日韓国基督教会館で開催

去る9月19日(木)、KCC(大阪)にて「第10回歴史講座」が開講された。金健牧師(歴史編纂委員長、川崎教会)の司会により、講師である李清一名誉牧師(歴史編纂委員会協力専門委員)を紹介された。



李牧師は、「外部研究者・資料に見る在日大韓基督教会(KCCJ) - 1945年以降を中心に」という主題で講義した。

はじめに、「在日大韓基督教会(KCCJ)の宣教100年の歩みを外観し、戦前戦後の固有性」が考察された。特に「60周年以降を分岐点とし、それまで個人の魂の救いのみに関心が寄せられていた傾向から、底辺にいる被差別、弱者に目が向けられていく宣教的姿勢の転換」がなされた。

次に、「KCCJに関するキリスト教界内外の論文・資料を通して、KCCJの存在の検証」に焦点があてられた。その内、キリスト教界側からの論文を紹介した。『福音と世界』、2005年9月号、東海林勤。またキリスト教界外からの論文の中で、特に印象的なものは、『在日韓国人—生活実態を中心に』、李光奎、1983年)であった。

講義の最後には、李牧師が、KCCJの概観を通して「在日大韓基督教会は、『在日』という歴史的な状況をキリストの福音信仰と関係づけながら、その歴史を形成した。戦前における固有性として、「教会員の流動性と教会の不安定」、「福音信仰における純粋性と民族的性格」という特質を持ったこと。戦後においては、今日「マイノリティ性、多様性、エキュメニカル性に、その固有な特質を見ることが出来る」。

また外部研究者の論文・資料を通して「キリスト教関係者からは、主にKCCJと日本のキリスト教関係におけるKCCJの存在性について示唆を与えられた。非キリスト教関係者の諸論文を通して、<在日>社会の広がりにおける宗教の果たした役割として、<KCCJ>が論じられていることを知った。このような視点は、KCCJに欠如しがちであった視点であるといえる。

また、質疑応答の時間が設けられ、金武士牧師と外部の参加者などからの質問がなされ、それに対する的確な講師の応答があった。このような歴史を学ぶことにより、根を深く張ることが許され、在日韓国人キリスト者としての喜びを改めて感謝する一時であった。(報告：金承熙)

<関西地方会> 3部合同 第4回サンクスフェスティバル

関西地方会女性部・壮年部・青年部3部共同主催の「サンクス・フェスティバル」が第4回を迎え、去る10月20日午後4時から大阪西成教会で開かれた。今年も多くの教会から150人を超える教会員が参加した。



今年のはのテーマは「感謝のいけにえを献げよ」(詩篇50:23)とした。そして、関西を中心にゴスペル・ミニストリーより著名な山本真一郎先生(ゴスペルミニストリーS.C.A代表)を招き、新しい礼拝経験をした。

第一部では、李元重牧師が、詩編50編で説教した。第二部では、山本先生が良く知られている讃美歌を新しい感覚で歌い、「小さな祈り」という曲を学ばせ、先生の演奏を聴き、さらに伝道と人生の中でなされた主の御わざの証しをした。

そして、金仁姫執事(京都教会)が「感謝」という題目の創作舞踊も披露した。主がわたしたちにくださった声、体、心を合わせて共に礼拝ができる、素晴らしい一時だった。記念写真の撮影後、各教会の女性会が準備した軽食バイキングで交流会を持ったが、その質、種類、量において真心がこもっている豊かな食卓だった。

今回は、女性部・壮年部・青年部の緊密な協力の結果だった。そして、関西地方会青年連合会の積極的な協力が心強かった。「これからの活躍も期待されており、また次世代の成長と伝道のために、青年自らも頑張っていたきたいし、もっと多くの教会の教役者と信徒のお祈りと応援、そして関心と協力を心から願っております」。(報告：関西地方会青年部)

<総会事務所 年末年始の休みのお知らせ>
日本基督教会館の閉鎖のため、以下のように休みます。
・12月30日(月)～1月3日(金)

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル：東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様～200名様の会議及び宿泊研修(50名)も可能。
・スペースYホール：200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
・韓国文化教室【チャング・カヤグム・舞踊】・韓国語講座・各種こどもクラス
・YMCA東京日本語学校【3ヶ月～2年、短期研修】

税込	平日	休・休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500
朝食・コーヒー¥200(宿泊者価格)		

関西◆にはんご教室《新規開講・募集中》韓国民俗芸術科【舞踊・チャンゴ】
在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/> *会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。
東京韓国YMCAアジア青少年センター 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5 ☎03-3233-0611
関西韓国YMCAアジア青少年センター 〒537-0025 大阪市東成区中道3-14-15 ☎06-6981-0782

KCCJ 社会的態度表明

「いつまで、この地は渇き、野の青草もすべて枯れたままなのか。そこに住むものらの悪が、鳥獣を絶やしてしまった。」(エ 12:4)
 「あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善い事で、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい」(ローマの信徒への手紙 12:2)

在日大韓基督教会 (KCCJ) 第 52 回定期総会に参加した私たちは、1 世紀以上にわたり日本の社会で共に暮らし、友情を交わし、正義と平和を希求し、社会に仕え、これからも子々孫々に暮らし続けるものとして、ここに「社会的態度表明」をする。

旧約聖書の預言者エレミヤは、エルサレムからバビロンへ強制移住させられた民に「町の平安を求め、その町のために主に祈りなさい。その町の平安があつてこそ、あなたがたにも平安があるから」と勧めた(エレミヤ書 29 章 7 節)。

私たちは、日本に生きる人々や自然、動物、そして生きとし生けるすべての生命が尊重され、互いに助け合うことが、東アジアおよび世界の平和に繋がることと確信し、その実現のため、以下のことを推進していく決意を表明するものである。

1. 日本政府は脱原発政策を

現代科学文明が生み出した原子力発電は、「地球温暖化防止に役に立ち、自然環境にやさしく、安いエネルギー」だと主張されてきたが、1979 年スリーマイル島原発事故、1986 年のチェルノブイリ原発事故等によって、人類に破滅をもたらすものであることが明らかになった。まさに福島原発事故は、そのことに確証を与えた。

明らかに人災といえる原発事故から 2 年半が過ぎても、放射能汚染は拡大され、フクシマと日本を越えて今も地球村を蝕む脅威となっている。ただちに原発推進政策を止め、原発稼働を中止し、廃炉すべきである。まして、原発ゴミである高レベル放射性廃棄物処分場の問題は次世代に取り返しのつかない負債を負わせることになる。

私たちは、被爆労働者や原発周辺の住民、被爆した生態系の悲惨な状況に注視し続けると同時に、隣人と共に苦しむものでありたい。

2. 東日本震災地の外国籍住民を孤立させない

私たちは、東日本大震災で被災した地域、人々の悲しみや恐れを覚えて祈り、全国の教会や海外教会から送られてきた義援金(約 3,500 万円)等で最優先的に連帯してきた。その活動の中で、約 8 万名の外国からの移住民の悲惨な状況を知った。彼ら彼女らは、「津波」の意味は分かっても「高台」が理解できず、緊急避難地も認識できないまま逃げのびた。そして日本語が不自由であるがために、さまざまな支援情報を得ることができず、孤立して暮らしている。

二重三重の苦しみにさらされている彼ら彼女らの現実に、行政は真剣に配慮しなければならない。彼ら彼女らを孤立させてはならない。

3. 政府から独立した「国内人権機関」の設立を

私たちは、90 年前に起こった関東大震災の混乱中、自警団等による朝鮮人虐殺の事件を覚えている。未だに真相解明がなされず、闇に放置されている。植民地政策と侵略戦争を正当化するため異民族への偏見や侮辱、恐れを植え付けた教育が背後にあったことを、私たちは想起する。

私たちは、日本国内において政府から独立した公正な審査ができ、さまざまな人権侵害を救済する機関の設置を求める。多民族・多文化の現代社会には、多様な価値観や主義主張があることは当然である。しかし、あからさまな差別発言、ヘイトスピーチ、差別行動をする人が増えつつある。人種、皮膚の色、ジェンダー、家柄 (descent)、国籍、民族的出身、障害、年齢、宗教および性的指向などにに基づく歴史的・現代的差別を禁止する法律の制定と、国内人権機関が一日も早く設置されることを願う。

4. 自由と尊厳を奪う改定入管法

日本の歴代政権は、国際社会の流れに反して、未だに外国籍住民への同化と排斥、監視・管理政策で一貫している。2012 年 7 月 9 日から実施された「改定」入管法・入管特例法・住民基本台帳法による「新たな在留管理制度」は、外国籍住民を特別永住者、中長期在留者、非正規滞在者という 3 つのカテゴリーに分類し、まず特別永住者に対してはこれまでと同様に管理しつつ同化と排除を続け、また中長期滞在者に対しては在留カードによって徹底的に管理するものである。さらに、非正規滞在者に対しては本人とその家族の生存権も剥奪する。重い罰則、在留資格取り消し、強制退去を伴う新制度は、明らかに差別政策であり、改正されなければならない。

5. 「記憶されない歴史は繰り返す」

日本の富国強兵政策による植民地支配とアジア太平洋侵略戦争など、歴史の傷が癒されないまま、未だに正義による裁きを叫ぶざるをえない。関東大震災における朝鮮人虐殺事件の実態調査と謝罪、日本軍「慰安婦」被害者の名誉回復と補償、在日韓国朝鮮人など旧植民地出身者とその子孫に対する人権保障、被爆韓国朝鮮人への手厚い補償、朝鮮学校とその子どもたちに対する差別政策の中止、北朝鮮との国交正常化、強制連行・強制労働の実態調査、日本の歴史責任が清算されなかった 1965 年韓日条約の見直しなど、歴史と正義が求める諸課題が取り残されたままである。「記憶されない歴史は繰り返す」というポーランドのアウシュビッツ収容所入口に書かれている言葉を、忘れてはならない。

6. 「外国人住民基本法」成立を

200 万人以上の外国籍住民が共に暮らす日本社会においては、国籍を問わず人間としての普遍的な自由と尊厳を提示する道しるべが必要である。長年の人権獲得運動の集約的産物として、「外国人住民基本法 (案)」が提示された。

これは、私たち KCCJ を含む多くのキリスト教団体が加盟している「外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会」が作成したものである。私たちは、日本がこの地で生きるすべての者を社会の構成員として尊重する、人権感覚に優れた先進国になることを希望する。「外国人が暮らしやすい社会は日本人にも暮らしやすい」からである。

2013 年 10 月 16 日

在日大韓基督教会 第 52 回定期総会 参加者一同

豊かな味、豊かな心。



妻家房

SAIKABO

代表取締役 吳永錫 (東京希望キリスト教会 長老)

四谷本店：東京都新宿区四谷 3-10-25 Tel. 03-3354-0100

日本国自民党による、「信教の自由・政教分離原則」を破壊する憲法改定案に対する声明

わたしたち、在日大韓基督教会は、神の恵みと祝福の内に名古屋の地にて開催された第52回定期総会において、信教の自由と政教分離の原則の問題をめぐる、自民党憲法改定案に対して、以下のように声明文を採択しました。

昨年12月、第二次安倍晋三政権が発足しましたが、安倍首相の所属する自民党は、現在、日本国憲法の改定の準備を進めています。わたしたちはキリスト者として、戦争放棄を謳った第9条が戦争の出来る国家として変更されようとしていることと共に、政教分離の原則に立つ信教の自由（第20条、第89条）が侵されようとしていることに対し、重大な危機感を抱いています。

信教の自由とは、信仰の自由、宗教的行為の自由、そして宗教的結社の自由から成っています。戦前の日本では、大日本帝国憲法制定以来、1945年の敗戦まで、天皇制・国家神道のもとに、政教分離の原則は壊され、信教の自由は侵害されていたために、天皇を「現人神」として崇拝させる国家神道・神社参拝・宮城遥拝は宗教ではなく、「国家の宗旨」、したがって国民が当然守るべき義務とされ、キリスト教をはじめ、他のすべての宗教はそれに服することを義務付けられました。それは偶像崇拝となるという理由で拒否したキリスト者は徹底的に弾圧を受け、拷問で苦しめられたのです。そして、日本における、ほとんどすべてのキリスト教会は、神社参拝・宮城遥拝による天皇崇拝政策に屈服し、遂には戦争協力を駆り立てられていったのです。その結果、天皇制のもとに推し進められた日本の侵略戦争は、日本国内ばかりでなく、朝鮮をはじめとするアジア地域に計り知れない犠牲をもたらす結果となったのです。

1945年の敗戦によって、連合軍は、天皇制・国家神道の問題の重大性に気づき、1945年12月に「神道指令」を発令し、国家神道を解体し、日本に政教分離の原則を確立しようとしてきました。そして、ついで1946年11月に現行の日本国憲法が公布され、翌年5月3日に施行され、第20条と第89条において、政教分離の原則に基づく信教の自由が確立されることとなったのです。

しかし、この度の自民党改憲案においては、信教の自由を保障する主体が「国」（国家）として位置付けられ、さらに深刻な問題として、政治と宗教の分離の原則が、第20条に新たな項目（第3項）が設けられることによって、国家権力によって踏み越えられてしまう余地が作られているのです。すなわち、「社会的儀礼、又は習俗的行為の範囲を超えないもの」については、国家は宗教に介入したり、関わり支援することができるように変更されているのです。ではいったい何が「社会的儀礼」であり、「習俗的行為」であるかを、誰が決めることができるのでしょうか。戦前の日本においては、国家神道・神社参拝を、宗教ではなく、国民の儀礼として国家が定義したことによって、キリスト教会をはじめとする他の宗教は天皇制国家神道に服従することを前提に宗教活動が許され、結果的にアジアへの侵略戦争を擁護していくために総動員されることになったのです。在日大韓基督教会の信仰告白は、その歴史を、「個人と国家が犯した罪の綱目」としてとらえ、悔い改めの信仰をもって記憶しているのです。

もし、この自民党改憲案が成立してしまったならば、神社参拝を、再び日本国民の社会的儀礼、また習俗的行為としてみなすことを可能にし、日本の学校が全生徒に神社参拝を社会的儀礼として義務付けるようなことが起こりえるのです。そうなれば、そのような政策や行政は、憲法的に擁護されてしまうこととなり、偶像崇拝を、聖書の信仰に立ち拒否するキリスト者の行為は、反社会的行為とみなされ、またそのような評価は憲法によって後押しされ、結果的にキリストの信仰に立ち、偶像崇拝を拒否しようとするキリスト教会が多額の被害をこうむることが予測されます。

自民党改憲案においては、そのほかにも、現行憲法において「国民の象徴」と位置付けられていた天皇が、「国家の元首」として位置付けられ、大日本帝国憲法の考え方に逆戻りするイデオロギーがあらわになっています。この問題と、政教分離原則の歪曲、そして「戦争放棄」理念の放棄の問題とは密接につながっているのです。

わたしたち、在日大韓基督教会は、宣教の歴史をこの日本の地に、1908年から開始し、1934年よりひとつの教団として誕生させ、この日本の地に朝鮮半島から流浪してきた民の中から、キリストによって呼び集められ、神の国の平和を求めながら歩んできました。しかし、天皇制国家神道に立つ日本国家の圧政のもとに1940年から（在日）朝鮮基督教会は閉鎖を余儀なくされ、また神社参拝・宮城遥拝を拒否したり、拒否を疑われた教役者や信徒が迫害を受ける苦難の道を歩みました。主イエスキリストはしかし、1945年8月の解放後、在日大韓基督教会を神の御計画の内に復活させてくださり、新たな使命を与えてくださいました。

そのことを覚え、わたしたち、在日大韓基督教会は、聖書の御言葉に立ち、唯一、真の神のみを神を信じ従う信仰によって、信教の自由を奪い、政教分離の原則を破壊し、結果的に偶像崇拝を強いることも可能にする現行日本国憲法第20条・89条の改憲に対して、深く憂慮し、断固反対するものであり、日本と、韓国をはじめとするアジアと世界の諸教会にこの問題を訴えていく所存であります。

2013年10月16日 在日大韓基督教会 第52回定期総会参加者一同



クリスチャン教会・企業検索サイト

レボト・ジャパン

Open!!

10月01日

リニューアル

http://www.rehoboth.jp

広告募集開始

Tel : 090-3945-3373
e-mail : info@rehoboth.jp

レボトジャパン 検索





「レボト・ジャパン」
代表 五原 謙



THE GOSPEL NEWS

재일대한기독교회
선교 100-110 주년 표어
감사의 백년, 소망의 백년
(데살로니가전서 5:18)

한글판

fukuinshinbun@kccj.jp (복음신문)
info@kccj.jp (총회사무국)

크리스마스 설교



만민의 기쁨 (누가 2:1~14)



이근수목사 (총회 서기, 오오가키교회)

성탄절 예배를 맞이하면서 우리의 구주이신 주 예수 그리스도의 탄생을 진심으로 축하합니다.

저는 몇 십년 전까지 세상 사람들이 크리스마스를 보내는 방법을 보고 매우 비판적이었습니다. 성탄절 장식이 화려하다거나, 장사에 이용하고 있다든가 하는 것보다도, 무엇보다도 크리스마스의 의미를 모른다는 것에 비판적이었습니다.

일본어로 '크리스마스' 라고 쓰면 기독교와 무슨 관계가 있는가 하고 생각하기 쉽습니다만, 영어로 쓰면 "Christmas" 일목요연합니다. < 크리스마스 > 란 그리스도를 예배하는 것입니다.

성탄절에 어디서 무엇을 하든지 다 좋습니다만 < 크리스마스는 그리스도를 예배하는 것 > 이라는 사실만은 잊지 말아야 합니다. 이것은 이것으로 올바른 생각이겠지요.

그런데 제가 생각을 조금 바꾼 것은 호주에서 크리스마스를 체험하고 나서부터입니다. 저에게 있어서 1996 년의 크리스마스는 혼자서 크리스마스를 맞이하게 되었기 때문에 매우 외로운 크리스마스였습니다. 그 해 10 월 6 일에 호주로 갔습니다만 가족은 그 다음 해 3 월에 왔습니다. 그 동안 저는 유나이티드 처치의 총무님 집에서 숙식을 하고 있었습니다.

그 총무님은 매년 크리스마스 때마다 자기 집으로 돌아가서 가족들과 함께 크리스마스를 축하 하는 것이었습니다. 그래서 크리스마스 기간 동안에 저 한 사람을 놔 둘 수가 없어서 근처에 있는 가정에 저를 맡기고 갔습니다.

그리고 나서 크리스마스를 맞이했습니다. 그 가족들이 모여서 크리스마스를 축하 했습니다만 그 가족 중에는 아랍계 사람이 있었습니다. 그 집 사위로 기억합니다. 그 사람은 물론 모슬림 (이슬람교도) 이었습니다. 그러나 그는 종교를 뛰어넘어 크리스마스를 축하하면서 즐기고 있었습니다.

혼자라서 외로웠던 저에게 선물도 주었습니다. 저는 선물이라는 것은 가족에게만 보낼 것이라고 생각하였기 때문에 선물 준비를 하지 못하고 받기만 했을 뿐이었습니다. 하지만 그들은 저를 배려하면서 제대로 선물을 준비 해 주었습니다. 그것도 이슬람 교도로 부터입니다.

저는 그 사람과 집 안에 있는 수영장에 들어가 함께 놀았던 것을 그렇게 생각합니다 (호주의 크리스마스는 여름에 있습니다). 그런 경험을 하고 나서 새로운 마음으로 오늘 말씀을 다시 읽어 보니까 지금까지 깨닫지 못했던 새로운 사실을 발견하게 되어 정말 놀랐습니다.

오늘 설교의 주제인 < 백성 전체에게 주어진 큰 기쁨 > (2:10, 일 본 신공동역) 이라는 말씀에 대해 생각해 봅시다. 이것은 오역에 가깝다고 생각합니다. 오히려 구어역 성경에서 "모든 사람" 이라고 번역하는 것이 무난할 것입니다. 한일 대조 성경의 "만민" 이라는 번역이 가장 좋다고 생각합니다. 영어 성경도 "whole (전체)" 로 번역하지 "all (모두)" 로 번역하고 있습니다.

그리스어 원전은 "판티 토 라우" (복수형) 로 기록되어 있습니다. 즉, "백성 전체" 로 번역한 것이 틀린 것은 아니지만, 그럴 경우에는 이스라엘 백성 전체라는 의미가 되어, 다른 사람은 관계없는 것이 되어 버립니다. 그것보다 전 세계 민족에게 주어진 기쁨으로 이해하는 것이 하나님의 뜻에 맞는 것으로 보입니다. 그러므로, 기독교인이 아닌 사람들에게도 크리스마스를 축하하는 것이 허락되어 있다는 것입니다.

이 사실은 생각해 보면 놀라운 일입니다. 아무런 제한 없이 모든 사람입니다. 좀 전에 말했듯이 종교가 다른 사람일 지라도, 예수 그리스도를 믿지 않는 사람일 지라도, 누구라도 상관 없습니다. 세상에서 배제되고 무시되고 차별 받는 사람이라면 더욱 크리스마스의 기쁨을 가장 먼저 맛볼 수 있도록 허용되는 것입니다.

이 크리스마스의 기쁨이 가장 먼저 목자들에게 알려진 것을 깊이 생각해 보아야 합니다. 당시의 목자라는 직업은 < 죄인 = 범법자 > 이 되지 않을 수 없었던 사람들이었습니다. 그들은 양을 기르고 있었지만, 소유자는 도시의 부자들입니다. 이러한 목자들은 한 번 마을을 벗어나면 1 개월에서 3 개월 정도 집에 돌아갈 수 없는 직업이었습니다.

따라서 모든 이스라엘 사람들이 반드시 지켜야 하는 안식일을 지킬 수 없습니다. 즉, 그들은 범법자이고 죄인들입니다. 위반을 하고 싶어서 하는 것이 아닙니다. 죄인이 되고 싶어서 된 것이 아닙니다. 살기 위해, 사랑하는 가족을 위해, 오늘도 양을 지키면서 노숙을 하고 있는 것입니다. 그리고 그것이 율법위반이라고 비난을 받았던 것입니다.

하나님께서서는 이런 목자들에게 가장 먼저 크리스마스의 기쁨을 전했습니다. 이제는 죄인이라고 취급을 받지 않아도 됩니다. 당당하게 가슴을 펴고 양치기를 하는 것이 허락되는 기쁨이 전해진 것입니다. 진정한 구세주가 이 세상에 와서 전하신 기쁨은 그 누구에게나 주어진 기쁨입니다. 바로 "만민" 에게 주어진 기쁨입니다.

2013 년 크리스마스를 맞이하면서, 이 기쁨을 여러분과 함께 나누고 싶습니다.

<제 10 회 역사강좌>

재일한국기독교회관에서 개최

지난 9월 19일(목) 오오사카 KCC 에서는 <제 10 회 역사강좌>가 개최되었다. 김건목사(역사편찬위원장)의 사회로 이청일명예목사(역사편찬위원회 협력 전문위원)가 강사로 소개되어 <외부 연구자, 자료로 보는 재일대한기독교 회(KCCJ) -1945년 이후를 중심으로 ->라는 주제로 강의하였다.

먼저, 재일대한기독교회(KCCJ)의 선교 100년의 발자취를 둘러보고 전쟁 전후의 고유성이 고찰되었다. 특히 [60주년 이후를 전환점으로, 지금까지 개인의 영혼 구원에만 관심이 전해지고 경향에서 저변에 있는 피차별과 약자에게 눈을 돌려가는 선교적 자세의 전환]이 이루어 졌다.



그런 다음 KCCJ에 대한 기독교계 내외의 논문 자료를 통해 KCCJ의 존재 확인에 초점을 맞추었다. 그 중에서 기독교계에서의 논문을 소개했다(「복음과 세계」, 2005년 9월호, 東海林勤). 또한 기독교계 밖에서의 논문에서 특히 인상적이었던 것은 「재일 한국인 - 생활 실태를 중심으로 -」, 이광규, 1983년)였다.

또한 이목사는 마지막 강의에서 KCCJ의 개관을 통하여 재일대한기독교회는 '재일'이라는 역사적 상황을 그리스도의 복음신앙과 관련 지으면서 역사를 형성했다고 말했다. 전쟁의 고유성으로 <교회의 유동성과 교회의 불안정>, <복음 신앙의 순수성과 민족적 성격>이라는 특성을 가졌으며, 전쟁 후에는 오늘날의 <소수성, 다양성, 에큐메니컬성>이라는 고유한 특성을 볼 수 있다고 했다.

이어서 외부 연구자들의 논문자료를 통해서 <기독교 관계자로부터는 주로 KCCJ와 일본의 기독교 관계에 있어서의 KCCJ의 존재성에 대하여 인정을 받았으며, 비기독교 관계자의 여러 논문을 통해서 <재일> 사회 확산에 있어서의 종교가 다한 역할로 <KCCJ>이 논의되고 있음을 밝혔다. 이러한 시점은 KCCJ에 부족하기 쉬운 시점이라고 말할 수 있다.

마지막 질의응답 시간에는 전총회장 김무사목사와 외부 참가자들이 질문을 하고 강사의 정확한 대답이 오고갔다. 참가자들은 이러한 역사를 배우는 것으로 뿌리를 깊게 내릴 수 있는 조건이 허락되었음에 재일 한국인 그리스도인으로서의 기쁨을 다시 한번 느끼면서 감사하였다. (보고 : 김승희)

<관서지방회> 3부 연합으로

제 4 회 감사 페스티벌 거행



관서지방회 여성부와 장년부, 그리고 청년부가 공동주최 한 [감사 페스티벌]이 제 4 회를 맞이하여 지난 10월 20일 주일 오후 4시부터 오오사카 니시나리교회에서 개최되었다. 올해도 관서지방회의 많은 교회에서 150 명이 넘는 교인들이 참가하였다.


특히 올해는 <감사축제>라는 제목의 의미를 살려서 <감사의 예물을 드리자>(시편 50:23)로 주제로 정했다. 그리고 관서지역을 중심으로 복음사역으로 유명한 야마모토 신이치로씨(山本真一郎, 복음 사역 SCA 대표)를 초청하여 새로운 예배 경험을 했다.

제 1부에서는 이원중목사(청년부장, 교포동산전도소)가 시편 50편으로 말씀을 전했다. 2부에서는 야마모토씨가 가스펠 시간을 통하여 잘 알려진 찬송으로 새로운 감각으로 찬양하면서 새로운 찬양을 가르치며, 연주도 하면서 전도와 인생 속에서 역사하셨던 하나님의 인도하심의 간증도 하였다.

그리고 김인희집사(교포교회)가 '감사'라는 제목의 창작 무용도 선보였다. 이어서 기념촬영 후 각 교회 여성회가 준비한 식사 뷔페를 하면서 교류회도 가졌다. 이러한 것은 3부의 긴밀한 협력의 결과였다. 그리고 관서지방회 청년연합회의 적극적인 협력도 있었다. "앞으로의 활약도 기대되며, 또한 차세대 성장과 전도를 위해 청년 스스로도 노력해 주기를 바라면서 더 많은 교회와 교역자들의 성도들의 기도와 응원, 그리고 관심과 협조를 진심으로 바라고 있습니다." (보고 : 관서지방 청년부)

<총회 사무실 연말연시 휴가안내>
일본기독교회관 폐쇠로 인하여 휴가합니다.
2013년 12월 30일(월)~2014년 1월 3일(금)

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル：東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様～200名様の会議及び宿泊研修(50名)も可能。
 ・スペースYホール：200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
 ・韓国文化教室【チャンゴ・カヤグム・舞踊】・韓国語講座・各種子どもクラス
 ・YMCA東京日本語学校【3ヶ月～2年、短期研修】
 関西◆にほんご教室《新規開講・募集中》韓国民俗芸術科【舞踊・チャンゴ】

税込	平日	休・休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500
朝食・コーヒー¥200(宿泊者価格)		

*会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。

在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/>
 東京韓国YMCAアジア青少年センター 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町 2-5-5 ☎03-3233-0611
 関西韓国YMCAアジア青少年センター 〒537-0025 大阪市東成区中道 3-14-15 ☎06-6981-0782

재일대한기독교회 사회적 태도표명

[언제까지 이 땅이 슬퍼하며 온 지방의 채소가 마르리이까 짐승과 새들도 멸절하게 되었사오니 이는 이 땅 주민이 악하여 스스로 말하기를 그가 우리의 나중 일을 보지 못하리라 함이니이다](예레미야 12:4)
 [너희는 이 세대를 본받지 말고 오직 마음을 새롭게 함으로 변화를 받아 하나님의 선하시고 기뻐하시고 온전하신 뜻이 무엇인지 분별하도록 하라](로마서 12:2)

재일대한기독교회(KCCJ) 제 52 회 정기총회에 참석한 우리는 1 세기 이상 일본 사회에서 함께 생활하며 우정을 나누고, 정의와 평화를 구현하면서 사회에 봉사하고, 앞으로도 자자손손 계속 생활 해 나를 사람으로서 여기에 “사회적 태도표명” 을 한다.

구약의 선지자인 예레미야는 예루살렘에서 바빌론으로 강제 이주를 당한 백성들에게 “너희는 내가 사로잡혀 가게 한 그 성읍의 평안을 구하고 그를 위하여 여호와께 기도하라. 이는 그 성읍이 평안함으로 너희도 평안할 것임이라” 이라고 권면했다(예레미야 29:7). 우리는 일본에서 사는 사람들과 자연과 동물은 물론이며 살아있는 모든 생명을 존중하고 서로 돕는 것이 동아시아 및 세계의 평화로 이어질 것으로 확신하고 그 실현을 위해 다음 사항을 추진해 나갈 결의를 표명하고자 한다.

1. 일본 정부는 탈 원전 정책을

현대 과학문명이 만들어 낸 원자력 발전은 “지구 온난화 방지에 도움이 되며, 자연 환경에도 좋고, 싼 에너지” 라고 주장되어 왔지만, 1979 년의 스리마일 섬 원전사고와 1986 년의 체르노빌 원전사고 등에 의해 인류에게 파멸을 초래하는 것임이 명백해졌다. 바로 후쿠시마 원전사고는 이것을 확증해 주었다. 분명히 인재(人災)라고 할 수 있는 원전사고로부터 2 년 반이 지났지만 방사능 오염은 확대되어 후쿠시마와 일본을 넘어서 지금도 지구촌을 침식하는 위협이 되고 있다. 즉시 원전 추진정책을 중지하고 원전가동을 중단하고 폐로(廢炉)해야 한다. 더 나아가 원전 쓰레기인 고방사성 폐기물 처분장의 문제는 다음 세대들에게 돌이킬 수 없는 빚을 짊어지도록 할 것이다. 우리는 피폭 노동자와 원전 주변의 주민과 피폭을 당한 생태계의 비참한 상황을 예의 주시 함과 동시에 이웃과 함께 고통에 동참하고자 한다.

2. 동일본 지진 재해 지역의 외국 국적 주민을 고립시키지 않는다

우리는 동일본 대지진으로 피해를 입은 지역 사람들의 슬픔과 공포를 기억하면서 기도하고, 전국 교회와 해외 교회로부터 보내져 온 의연금(약 3,500 만엔) 등으로 최우선적으로 연대를 해 왔다. 그 활동 중에 약 8 만 명의 외국으로부터의 이주민의 비참한 상황을 알았다. 그들과 그녀들은 “쓰나미”의 의미는 알라도 “고대”(高台)라는 말을 이해하지 못했으며, 긴급 피난장소도 인식하지 못한 채 피난했다. 그리고 일본어가 부자유함으로 인하여 다양한 지원 정보를 얻을 수 없어 고립되어 살고 있다. 이중 삼중의 고통에 노출 된 그들의 현실에 행정은 심각하게 배려를 해야 한다. 그들을 고립시켜서는 안 된다.

3. 정부로부터 독립 된 ‘국내 인권기관’ 설립을

우리는 90 년 전에 일어난 관동대지진의 혼란 속에서 자경단에 의한 조선인 학살사건을 기억하고 있다. 아직도 진상 규명이 이루어지지 않고 어둠에 방치되어있다. 식민지 정책과 침략 전쟁을 정당화하기 위해 이민족에 대한 편견과 모욕과 공포를 심어준 교육이 뒤에 있었다는 것을 우리는 상기한다. 우리는 일본 국내에 있어서 정부로부터 독립 된 공정한 심사가 이루어지며, 다양한 인권 침해를 구제하는 기관의 설치를 요구한다. 다민족, 다문화의 현대 사회에는 다양한 가치관과 주의(主義) 주장이 있는 것은 당연하다. 그러나 노골적인 차별발언과 증오표현(hate speech)과 차별행동을 하는 사람들이 증가하고 있다. 인종, 피부색, 성별, 혈통(descent), 국적, 민족적 출신, 장애, 나이, 종교와 성적 취향 등에 근거한 역사적이며 현대적 차별을 금지하는 법률 제정과 국내 인권기관이 하루 빨리 설치되기를 바란다.

4. 자유와 존엄을 빼앗는 개정입관법(改定入管法)

일본의 역대 정권은 국제사회의 흐름과는 반대로, 아직도 외국 국적 주민에게 동화와 배척, 감시와 관리정책으로 일관하고 있다. 2012 년 7 월 9 일부터 실시 된 [개정] 입관 법과 입관 특례법, 그리고 주민 기본 대장법에 의하면 <새로운 재류 관리제도> 는 외국 국적 주민을 특별 영주자, 중장기 체류자, 비정규 체재자라고 하는 세 가지 범주로 분단하여, 먼저 특별 영주자에 대해서는 지금까지와 마찬가지로 관리하면서 동화와 배제를 계속하며, 중장기 체재에 대해서는 재류 카드에 의해 철저히 관리하고 있다. 또한 비정규 체재자에 대해서는 본인과 그 가족의 생존권도 박탈한다. 무거운 처벌과 재류자격 취소, 강제 퇴거를 동반하는 새로운 제도는 분명한 차별정책이며, 개정되어야 한다.

5. [기억되지 않는 역사는 반복한다]

일본의 부국 강병 정책에 의한 식민지 지배와 아시아 태평양 침략 전쟁으로 역사의 상처가 치유되지 않았으므로 아직도 정의의 심판을 외칠 수 밖에 없다. 관동대지진의 조선인 학살사건의 실태조사와 사죄, 일본군 ‘위안부’ 피해자의 명예회복과 보상, 재일 한국인과 조선인 등 구 식민지 출신자와 그 자손에 대한 인권보장, 피폭을 당한 한국인과 조선인들에게 최대한의 보상, 조선학교와 자녀들에 대한 차별정책의 중지, 북한과의 국교 정상화, 강제 연행과 강제노동의 실태조사, 일본의 역사 책임이 청산되지 않은 1965 년 한일조약의 재검토 등, 역사와 정의가 요구하는 여러 문제가 그대로 남겨져 있는 상태이다. [기억되지 않는 역사는 반복한다] 는 폴란드 아우슈비츠 수용소 입구에 쓰여져 있는 말을 잊지 말아야 한다.

6. [외국인 주민 기본법] 성립을

200 만 명 이상의 외국 국적 주민이 함께 사는 일본사회에서는 국적을 불문하고 인간으로서의 보편적인 자유와 존엄을 제시하는 이정표가 필요하다.

오랫동안 인권쟁취운동을 통해 집약된 산물인「외국인 주민 기본법(안)」이 발표되었다. 이것은 우리 KCCJ 등 많은 기독교단체가 가맹하고 있는 [외국인 주민기본법 제정을 요구하는 전국 기독교 연합회의]가 작성한 것이다. 우리는 일본이 이 땅에 사는 모든 사람을 사회의 구성원으로 존중하는 인권 감각이 뛰어난 선진국이 되기를 희망한다. <외국인이 살기 좋은 사회는 일본인도 살기 좋기> 때문이다.

2013 년 10 월 16 일

재일대한기독교회 제 52 회 정기총회 참가자일동

豊かな味、豊かな心。
 妻家房
 SAIKABO
 代表取締役 吳永錫 (東京希望キリスト教会 長老)
 四谷本店：東京都新宿区四谷3-10-25 Tel. 03-3354-0100

일본국 자민당에 의한 <종교의 자유·정교분리원칙>을 파괴하는 헌법 개정안에 대한 성명

우리 재일대한기독교회는 하나님의 은혜와 축복 속에 나고야에서 개최된 제 52 회 정기총회에서 종교의 자유와 정교분리의 원칙에 대한 문제를 둘러싸고 자민당 헌법개정안에 대해서 다음과 같이 성명문을 채택하였습니다.

작년 12 월, 제 2 차 아베 신조 정권이 발족하였습니다만, 아베 수상 소속의 자민당은 현재 일본국 헌법개정을 진행하고 있습니다. 우리는 그리스도인으로서 전쟁포기를 표방한 제 9 조를 전쟁이 가능한 국가로 변경하려고 하는 일과, 정교분리의 원칙에 입각한 종교의 자유(제 20 조, 제 89 조)가 침해 당하려 하는 일에 대하여 중대한 위기감을 가지고 있습니다.

종교의 자유란 신앙의 자유, 종교적 행위의 자유, 그리고 종교적 결사의 자유로 구성되어 있습니다. 전쟁 전의 일본에서는 대일본제국헌법 제정 이후, 1945 년 패전 때까지, 천황제·국가신도(神道)의 기치아래, 정교분리의 원칙은 파괴되고 종교의 자유는 침해 당하고 있었으며, 천황을 이 세상에 인간의 모습을 하고 나타난 신으로 숭배케 하는 국가신도·신사참배·궁성요배는 종교가 아니고 <국가의 국민의례>, 따라서 국가가 당연히 준수해야 할 의무가 되어 그리스도교를 비롯하여 다른 모든 종교는 거기에 복종하는 것이 의무화되었습니다. 그것을 이상숭배라는 이유로 거부한 그리스도인은 철저히 탄압을 받고, 고문으로 괴로움을 당했습니다. 그리고 일본에서 거의 모든 그리스도교회는 신사참배·궁성요배에 의한 천황숭배정책에 굴복하고 결국에는 전쟁협력에 밀려나가게 되었습니다. 그 결과 천황제 아래에서 추진된 일본의 침략전쟁은 일본 국내뿐만 아니라, 조선을 시작으로 아시아 지역에 측량할 수 없는 희생을 치루는 결과를 가져왔습니다.

1945 년 패전으로 인해 연합군은 천황제·국가신도의 문제의 중대성을 깨달아, 1945 년 12 월에 <신도지령(神道指諭)>을 발령하고 국가신도를 해체하여 일본에 정교분리의 원칙을 확립하고자 했습니다. 그와 함께 1946 년 11 월에 현행의 일본국 헌법이 공포되고 다음 해 5 월 3 일에 시행되어 제 20 조와 제 89 조에서 정교분리의 원칙에 기초하는 종교의 자유가 확립되게 되었던 것입니다.

그러나 금번 자민당 개헌안에서는 종교의 자유를 보호하는 주체가 <나라(국가)>로서 자리매김 되어 있고, 더욱 심각한 문제는 정치와 종교의 분리 원칙이, 제 20 조에 새로운 항목(제 3 항)이 만들어짐으로 국가 권력에 짓밟혀 질 여지가 만들어졌다는 것입니다. 즉 <사회적 의례 또는 관습적 행위의 범위를 넘지 않는 것>에 관해서는, 국가는 종교에 개입하거나 관계하고 지원할 수가 있도록 변경이 된 것입니다. 그렇다면 도대체 무엇이 <사회적 의례>이며 <관습적 행위>인지를, 누가 결정할 수 있을까요? 전쟁 전의 일본에서는 국가신도·신사참배를 종교가 아니라 국민의 의례라고 국가가 정의를 내려, 그리스도교회를 비롯한 다른 종교는 천황제 국가신도에 굴복할 것을 전제로 종교활동이 허락되고, 결과적으로 아시아에 대한 침략전쟁을 옹호하기 위해 총동원을 하게 되었던 것입니다. 재일대한기독교회의 신앙고백은 그 역사를 <개인과 국가가 범한 죄의 속박>로서 이해하고 회개의 신앙을 가지고 기억하고 있습니다.

만일 이 자민당 개헌안이 성립 되어지면, 신사참배를 또다시 일본국민의 사회적 의례, 또는 관습적 행위로 간주할 수 있게 되고, 일본 학교의 전교생에게 신사참배를 사회적 의례로서 의무화하는 일이 생길 수 있게 됩니다. 그렇게 되면 그러한 정책이나 행정은 헌법적으로 옹호를 받게 되며, 성경의 신앙에 입각하여 이상숭배를 거부하는 그리스도인의 행위는 반사회적 행위로 간주되며, 또 그러한 평가는 헌법에 의해 뒷받침되고 결과적으로 그리스도 신앙에 입각하여 이상숭배를 거부하려는 기독교회가 막대한 피해를 입게 될 것으로 예측됩니다.

자민당 개헌안에서는 그 외에도 현행헌법에서 <국민의 상징>으로 자리가 매겨져 있는 천황이 <국가의 원수>로서 자리매김 되며, 대일본제국의 사고방식으로 뒷걸음질 치는 이데올로기가 분명해 지고 있습니다. 이 문제와 정교분리 원칙의 왜곡, 그리고 <전쟁포기>이념의 포기의 문제와는 밀접하게 연결되어 있는 것입니다.

우리 재일대한기독교회는 선교의 역사를 이 일본 땅에서 1908 년부터 시작하여, 1934 년부터 하나의 교단을 탄생시켜 이 일본 땅에 한반도에서 흘러온 백성들 가운데서, 그리스도께 부름을 받아 하나님 나라의 평화를 구하면서 걸어왔습니다. 그러나 천황제 국가신도에 입각한 일본국가의 압제 아래서 1940 년부터(재일)조선기독교회는 폐쇄를 꿈쩍없이 당하고 또 신사참배·궁성요배를 거부하거나 거부를 의심받는 교역자와 신도가 박해를 받는 고난의 길을 걸어왔습니다. 그러나 주 예수그리스도는 1945 년 8 월의 해방 후, 재일대한기독교회를 하나님의 계획 안에서 부활시켜 주시고 새로운 사명을 부여해 주셨습니다.

그 사실을 기억하며 우리 재일대한기독교회는 성경의 말씀에 입각하여 오로지 참 하나님만을 믿고 따라가는 신앙에 의해, 신앙의 자유를 빼앗고 정교분리의 원칙을 파괴하고 결과적으로 이상숭배를 강요할 수 있는 현행일본국헌법 제 20 조/89 조의 개악(改惡)에 대해서 깊게 우려하며 단연코 반대하는 바이며 일본과 한국을 비롯하여 아시아와 세계의 여러 교회에 이 문제를 호소해 나갈 것입니다.

2013년 10월 16일 재일대한기독교회 제 52 회 정기총회 참가자 일동

クリスチャン教会・企業検索サイト
レホボト・ジャパン
 Open!!
10月01日
リニューアル 広告募集開始
<http://www.rehoboth.jp>
 Tel : 090-3945-3373
 e-mail : info@rehoboth.jp
 「レホボト・ジャパン」
 代表 玄承 様
 レホボトジャパン 検索